令和８年　第９回弟子屈町定例教育委員会会議録

１　日時：令和８年９月２９日（火）午前１０時００分から午前１１時０５分まで
２　会場：弟子屈町役場委員会室
３　出席委員
　岩原教育長、金井教育長職務代理者、菅原委員、吉田委員、宮田委員
　欠席委員
　なし
　出席事務局
　鈴木管理課長、岡田管理課長補佐、川上指導室長、川井田社会教育課長、金須社会教育課長補佐、坪井給食センター副所長、
　片岡係長、藤森専門主査
　欠席事務局
　杉崎公民館副館長、小見山図書館副館長、
４　会議録署名委員：宮田委員
　前回署名：吉田委員
５　傍聴人　なし

議事日程

令和　8年　9月２９日

日　程	議案番号	議　　件
1		会議録署名委員の指名について
2		会期の決定について
3		教育長行政報告について
4	報告第１３号	全国学力・学習状況調査の報告について
5	報告第１４号	令和８年度前期弟子屈町いじめ・不登校調査の概要の報告について
6	議案第２６号	弟子屈町文化賞及び文化奨励賞の決定について

会議内容

【開　会】

鈴木課長　：ただ今より、令和８年第９回定例教育委員会を開会いたします。
開会にあたり、岩原教育長よりご挨拶申し上げます。

岩原教育長：おはようございます。
本日は、お忙しいところ、ご出席いただき、大変、ありがとうございます。
それでは、ただ今から、令和８年第９回定例教育委員会を、開会いたします。

岩原教育長：日程１　会議録署名委員の指名につきましては、宮田委員にお願いしたいと思います。
前回の教育委員会での会議録の承認につきましては、吉田委員にお願いしておりましたが、よろしいでしょうか？

各委員　　：はい。

岩原教育長：それでは、そのように取り計らいたいと思います。

岩原教育長：日程２会期の決定ですが、会期につきましては、本日１日限りといたしたいと思いますが、これにご異議ございませんか？

各委員　　：ありません。

岩原教育長：異議なしということで、会期は、本日１日限りといたします。

岩原教育長：日程３教育長行政報告につきましては、私の方から説明いたしますので、お手元の資料を見て頂きたいと思います。

【行政報告件名】

8 月 25 日（火）　公民館ロビー展「開館６０周年記念なつかし写真展」
職員採用面接試験
8 月 26 日（水）　公民館開館６０周年記念札幌交響楽団金管五重奏アンサンブルコンサート
8 月 27 日（木）　議会運営委員会
高校学校説明会（みんなの弟高デー）
表敬訪問（摩周ジャガーズほか）
8 月 29 日（土）　川湯神社祭奉納相撲大会観戦
8 月 31 日（月）　美留和小学校運営協議会
9 月 3 日（木）　弟子屈町文化賞審議会
9 月 4 日（金）　第６回連携校長会議
9 月 5 日（土）　町 PTA 連合会研究大会・８年度生涯学習講演会
宇津木妙子 CUP 第１３回道東地区選抜野球弟子屈大会
9 月 6 日（日）　公民館ロビーミニコンサート
9 月 7 日（月）　第３回定例町議会（～9 日まで）
9 月 11 日（金）　草の根教育実習受入（和琴小）

9 月 12 日（土）　メンタルケア講座
公民館講座・川湯ビジターセンター自然ふれあい行事
9 月 14 日（月）　生きがい講座合同室内小運動会
9 月 15 日（火）　第６回連携教頭会議
9 月 17 日（木）　イングリッシュ ウィーク参観
英語指導力向上実践研修会
9 月 24 日（木）　児童生徒芸術鑑賞事業
ニュースポーツ教室
9 月 25 日（金）　公民館「ふるさと講座」
9 月 26 日（土）　弟子屈中学校文化祭
9 月 29 日（火）　第８回定例教育委員会

教育長日記　　４件掲載

岩原教育長：以上で、行政報告について終わらせて頂きます。
何か、ご意見や、質疑がありましたら、お聞かせ願いたいと思います。
ありませんか？
岩原教育長：ないようですので、行政報告については報告済みとさせていただきます。

岩原教育長：日程４報告第１３号「全国学力・学習状況調査の報告について」を、議題と致します。事務局より、説明をお願いします。

川上室長　：指導室から、全国学力学習状況調査について説明させていただきます。資料はデータ配布しております。実施日は令和８年４月２３日、実施児童生徒は、小学校６年生３２名、中学校３年生３５名です。
調査内容ですが、教科に関する調査は、国語、算数・数学、中学は英語、それと生活習慣や学習環境等に関する児童生徒質問調査及び学校調査となっております。それでは分析結果についてお話します。まずは小学校です。学調 01 ファイルの１ページをご覧ください。2 の（1）平均正答率ですが、国語については、全国平均を５．９ポイント下回っています。算数については、全国平均を２．４ポイント下回っております。2 の（2）過去５年間の結果の推移ですが、この 2 年間は特に算数が 10 ポイント以上下回る状況が見られましたが、今年度は全国平均とほぼ同程度の結果となりました。
平均正答率推移につきましては、年度ごとに対象児童が異なり、また児童数の減少に伴い 1 人の児童が平均値に与える影響が大きくなってきているため、参考程度の値にしかなりません。本町としましては、同一集団で推移を追うことができる 12 月の学力調査の結果をより重視していきたいと考えております。
3 児童質問の結果ですが、今年度においても国語や算数の学習について、全国平均と比べ否定的な回答が多いのが気になるところです。日常の授業において、目的意識や相手意識が明確で、学ぶ必要感の感じられる授業づくりを進めていくことや、身に付けたことを活かす場面を設定することも大切だと考えます。

より一層、子どもを主語にした学びへの転換が進むよう学校へ関わってまいります。２ページをご覧ください。国語については、正答率が高かったものは、文章全体の構成や展開を考える設問や、考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめて書く設問でした。一方で、目的に応じて、必要な情報を見付けることや比喩や反復などの表現の効果などについては課題が見られます。
算数については、特に図形の領域の正答率が高かった一方で、分数に課題があります。３ページをご覧ください。
5 児童質問の結果ですが、今年度より児童生徒質問紙の回答状況と各教科の正答率の相関を示したクロス集計を使った分析を取り入れました。本資料にはその一部を載せております。他の分析内容につきましては、資料の後半にございますので後ほどご覧ください。まず、メディア利用については、使用時間が４時間を超えると正答率が一気に下がることがわかります。自分には良いところがある、人の役に立つ人間になりたい、の二つの設問については、「当てはまる」と回答した群の正答率が大変高くなっています。
次に学習時間については、本町の児童生徒は全国と比べて学習時間が短い傾向にありますが、２～３時間と比較的長く勉強している群の正答率が低いことから、時間だけではなく学習の質を高めることも必要だと感じています。
読書時間につきましては、「10 分以上 1 時間未満」で読書している子の正答率が高い傾向にあります。特に「10～30 分」の群では国語も算数も正答率が 64 以上となっています。一方で全く読書しない子が全体の 62.5%を占めています。全国は 26.3%です。次のページをご覧ください。協働的な学びに関わりまして、肯定的な回答の割合が 90.7%と全国より高く、特に「当てはまる」と回答した群の正答率は国語 61.5・算数 59.0 と大変高くなっております。対話的な学びを軸とした協働的な学びの重要性がうかがえます。
総合的な学習の時間に関わって、「どちらかといえば 当てはまらない」の割合が高く、正答率も低いことから、小学校での更なる活動の充実が求められます。
今後の方策につきましては、中学校分のあとに説明させていただきます。
続いて中学校についてです。学調 02 のファイルの 1 ページをご覧ください。
2 の（1）平均正答率ですが、国語については、全国平均を１．９ポイント下回っています。数学については、全国平均を 3 ポイント下回っています。2 の（2）過去５年間の結果の推移ですが、この２年間は全国平均と同程度で推移しています。ただ、平均正答率の推移につきましては、小学校同様、同一集団で推移を追うことできる 12 月の学力調査の結果をより重視していきたいと考えております。
3 生徒質問の結果ですが、中学校につきましては、肯定的な回答が大変多くなっています。特に、３教科共にその教科の勉強が好きと答えた割合が全国平均と比べて大変高くなっています。一方で、英語に関わって、「これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にありましたか」については全国平均よりも１５ポイント以上低く、生きて働く英語力を身に付けるためにも、効果的な場面設定などの手立てが求められます。2 ページをご覧ください。全国平均と比べ、正答率が低かった部分は、国語については、

複数の文章を読み比べることや、文章の中心的な部分と付加的な部分について捉えるなど、読むことに課題が見られました。数学については、累積度数の意味理解や、正負の数の適切に用いて表すことに課題があります。英語については、「読むこと・書くこと」や「聞くこと」については全国とほぼ同程度の正答率だった。一方で「話すこと」全般において課題が見られます。
3 ページをご覧ください。5 生徒質問の結果ですが、中学校もクロス集計をもとにした分析結果となります。
まず、メディア利用については、4 時間以上の使用は全国に比べて少ないもののやはり正答率は低くなります。「1～2 時間」の正答率が最も高くなっています。将来の夢や目標を持っているか、の問いには「当てはまる」の回答が多く正答率も高い傾向ですが、「当てはまらない」が 15.2%（全国は 11.5%）おり、その正答率が大変高いです。夢はないが学力は高い生徒がいるということになります。人の役に立つ人間になりたい、肯定的な回答が９６．９％（全国 95.9%）であり、正答率は高い傾向にあります。次に学習時間については、平日の勉強時間が 1 時間未満の生徒が全体の 72.7%に上ります。全国は 37.9%ですので、本町の生徒の勉強時間が短いことがわかります。本町の最も正答率が高い群は「1～2 時間」となっています。効率良く勉強できているとも言えるのかもしれません。次のページをご覧ください。読書時間につきましては、「30 分未満」が全体の 78．8%を占めている。（全国は 69.2%）「全く読書しない」群が 10 名いるが、数学の正答率が大変高い。
協働的な学びに関わりまして、「当てはまる」割合は 48.5%（全国は 39.6%）で正答率も高くなっています。一方で同じ肯定的な回答でも「どちらかといえば、当てはまる」になると正答率が下がっています。
総合的な学習の時間に関わっては、「当てはまる」と回答した割合が 72.7%（全国は 32.4%）もおり、その群の正答率は高い傾向にあります。総合的な学習の時間や探究的な学習の充実が、各教科を学ぶ意欲を高めているととらえることもできそうです。
今後の改善方策ですが、大きく３点となります。１つ目が、学力向上に向けた PDCA サイクルを確実に推進することです。本調査や CRT の結果分析を基に、町としての学力向上プランを策定し、見直しを図ります。「子どもが主語」の授業の実現に向け、「見方・考え方」を働かせた学びや指導と評価の一体化の視点をもって、より一層「主体的・対話的で、深い学び」や「個別最適な学びと協動的な学びの一体的な充実」を図ってまいります。
２つ目が、家庭との連携です。家庭学習の充実を図るために、各校において手引きの作成等取り組んでいただいていますが、クロス集計の結果からも、やはりゲームやスマホ等を含む、生活習慣の見直しが大事であると考えます。各学校においても、学校評価等の実施・分析を活用しながら、各家庭への啓発活動に力を入れていきます。
３つ目が、教職員の資質向上です。各校の研修においても主体的・対話的で深い学びの構築、「個別最適な学びと・協働的な学びの一体的な充実」の視点を盛り込んだ授業展開などについて、研鑽をより深めていく必要があります。ま

た、各教育機関における研修会も随時行われているので、引き続き積極的な参加を図っていきます。
最後に、小学校・中学校のそれぞれの資料の後半部分は、本調査の概況とクロス集計の結果となります。参考にしていただければと思います。あわせて、本調査資料については本会議における説明資料として用意したものですので、取扱いについては十分にご留意願います。
また、学調 03 のファイルにつきましては、試作段階ではありますが、町のホームページに掲載用の資料となります。１０月中の掲載を予定しています。
以上です。

岩原教育長：ただ今、説明がありましたが、何か質疑がありましたら、お願いします。

金井委員　：小学校の読書時間が短いようだが、朝の読書時間を設けられていると思うが。
川上室長　：朝の読書時間を設けている学校はまちまち。弟子屈小学校では数年前に朝の読書・学習の時間を削除した。ただ学校現場ではテストや自分の活動が早く終わったときには読書して待つようにと指導している。かつてのように町内一律で朝読書を推進している状況ではありません。
金井委員　：中学校では読書をしない子の数学の正答率が高いが、その問題は文章問題なのか、図形問題なのかの分析はしていますか。
川上室長　：個人ごとに細分化して、クロス集計するとわからなくもないですが。
金井委員　：わかりました。
吉田委員　：勉強時間が１時間未満の回答が多い。うちでは、部活後に帰宅して、夕飯までの間の時間はあるが、文化祭の準備等もあって、あまり勉強する時間はないように感じます。それでも成績は悪くないため、授業である程度、理解できる環境にあるのかと思っています。そのような環境であるならば、家庭学習は補助的でもいいかと、親の立場としては感じています。読書については、自分の世代もそうですが、今の子も読書をしなくなりました。本を開く習慣がなく、日常的に活字を読むことが少ないです。
金井委員　：成績が良いとは、どのレベルかにもよるかと思います。学校全体のレベルがそれほど高くない中での高成績であったとしても、レベルが高い学校だと、ついていけないといったこともあります。学校のレベルポジションがどこに位置しているのかも重要となります。学校内だけではなかなか比較することは難しいと思われます。
吉田委員　：集団が小さくなってきているため、学年によってのばらつきが顕著となっています。
金井委員　：母数が少ないため、平均値にばらつきを及ぼします。
川上室長　：１学年 30～35 人程度なので、１人が及ぼす影響が大きいです。
岩原教育長：ほかにないようですので、本件についてはよろしいでしょうか？
各委員　　：はい。
岩原教育長：それでは、報告第１３号　「全国学力・学習状況調査について」は、報告済みといたします。

岩原教育長：日程５　報告第１４号「令和８年度　前期　弟子屈町いじめ・不登校調査の概要の報告について」を、議題と致します。
事務局より、説明をお願いします。

川上室長　：令和８年度いじめ実態調査の前期の概要について説明させていただきます。資料はいじめ・不登校の概要として一括したものとなっております。
資料の　１ページ目をご覧ください。
本町では、いじめ根絶に向けて「１学校１運動」や「弟子屈町未来こども会議」における取組の交流等、いじめの未然防止に全力を挙げております。また、町内全ての学校で「学校いじめ防止基本方針」が策定され、法に基づいた組織的ないじめへの対応がなされています。
「いじめは、どの学校においても起こりうるもの」という考えのもと、常に未然防止・早期発見・早期対応を心がけることが重要であると考えています。いじめ実態調査の実施時期は昨年度より年３回となり、６月現在、１１月現在に加え、３月にも実施しております。町内全小中学校性を対象に実施しています。なお、実態調査以外にも、日常的に相談対応をとっています。
４．各調査項目につきましては、「嫌な思いをしたことがある」児童生徒の割合については、（１）の表の通りです。特に大切なのが積極的な認知です。小中学校共に積極的な認知が進められ「見逃し０」に向けての意識が高まっています。（２）をご覧ください。「どんな嫌なことをされたか」の問いでは、小中学校共に「冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」件数が多いことがわかります。また、小学校ではこのほかに、「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする」なども目立っています。
今年度より、「卑わいなことを言われたり、身体を触られたり、性的な動画・画像を撮影・送信されたりするなど、性的な嫌がらせや性的な行為をされる」の項目が追加されています。これらの内容につきましては、警察との早期の連携が推奨されると共に、いじめ重大事態へつながる恐れのある項目です。
２ページをご覧ください。「嫌な思いをした時、誰に相談しますか？」の問いでは、小中学校共に学校の先生や父や母などの家族に相談する児童生徒が多いことが分かります。気になる点としては、誰にも相談しない児童生徒が小学校で前年度よりも増加しています。また、前年度並みとはいえ中学校でも１０名を超えています。引き続きＳＯＳの出し方教育の充実に努めてまいります。
「いじめはどんなことがあっても許されない」の問いでは、「そう思わない」「よく分からない」と答える児童生徒が昨年度と比べて減少しています。今後も「いじめは絶対許されない」という意識の醸成を進めていきます。
昨年度新設された「あなたは学校のいじめ対策基本方針をしっていますか」の問いに対しては、中学校においては浸透しつつあることがうかがえます。小学校においては、時間がたつと意識が薄れる傾向にありますので、改めて児童会活動などと関連付けながら学校全体で取り組んでいる大切な取り組みであることが浸透するよう努めていきます。

今後も、いじめに対する捉え方や、児童生徒の悩みに対して親身になって耳を傾ける、相談しやすい環境づくりを小中学校一環として大切にしていきたいと考えています。
つづいて、令和８年度 前期の不登校児童生徒の状況について説明させていただきます。同じ資料の３ページ目をご覧ください。
不登校の定義ですが、何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しない、あるいは登校したくてもできない状況にあるために欠席したもののうち、病気や経済的な理由をのぞくものとされており、年間累計３０日以上の欠席が該当します。
調査方法ですが、毎月１回、各校より所定の様式に記入の上、提出の形をとっています。
不登校児童生徒の実態ですが、８月末現在で、小学校１名、中学校５名の計６名となっています。資料の表には１５日～３０日の欄も設けています。早い段階で把握するためです。人数自体は前年比で－4 名となっています。不登校の未然防止としましては、各学校において校内ケース会議等を開催し、可能な支援について児童生徒・保護者へ提案し居場所作りに努めていることが挙げられます。一方で価値観の多様化に伴い、「学校に登校する・させる」という従来の意識に縛られないケースも存在します。
また、長期化している児童生徒につきましては、登校再開をゴールとすることなく、社会とのつながりの維持や、家庭・学校以外の第３の居場所づくりに努めています。
今年度も、関係機関との情報共有など連携を図っています。また、今後も学校における不登校対策委員会に町教委も参加し、その内容を分析した上で、健康子ども課や外部機関と連携した支援策を検討してまいります。
いじめ同様、相談しやすい学校体制の構築が第一であると考えます。今後も児童生徒・保護者・学校のより一層の信頼関係の構築に向け、指導・助言に努めてまいります。
最後に、調査資料については本会議における説明資料として用意したものですので、取扱いについては十分にご留意願います。以上です。

岩原教育長：ただ今、説明がありましたが、何か質疑がありましたら、お願いします。
岩原教育長：ないようですので、本件についてはよろしいでしょうか？
各委員　　：はい。
岩原教育長：それでは、報報告第１４号「令和８年度　弟子屈町いじめ・不登校調査の概要の報告について」は、報告済みといたします。

岩原教育長：日程６議案第２６号「弟子屈町文化賞及び文化奨励賞の決定について」を、議題と致します。なお、本件につきましては、「個人及び団体の顕彰に関すること」でありますので、「弟子屈町教育委員会　会議規則第１５条」により、秘密会と致します。

【非公開案件】

岩原教育長：秘密会を、解きます。
岩原教育長：それでは、議案第２６号「弟子屈町文化賞及び文化奨励賞の決定について」を承認いたします。

岩原教育長：これで、予定していた日程は、全て終了しましたが、他に協議しておきたい事項・連絡などが、ありましたら、お願いします。
岩原教育長：各委員からありますか？
各委員　　：ありません。

岩原教育長：そのほか事務局からの報告及び連絡をお願いします。
岩原教育長：なお、事務局からの報告には、「個人及び団体の権利を侵害するおそれのある事件に関すること」が含まれておりますので、秘密会とたします。

【非公開案件】

岩原教育長：引き続き、事務局よりお願いいたします。
鈴木課長　：続いて、令和 8 年度の夏季休業期間中における町内各小中学校職員の在宅勤務実施状況について、ご報告いたします。夏休みの期間（7 月 25 日から 8 月 22 日まで）30 日間における、自宅等での在宅金状況となります。実施状況としましては、3 名が利用し、全部で 15.5 日間　実施しており、主な業務内容は、生徒指導に関する資料作成、教材研究、オンライン研修などとなっております。
最後となります。主な行事予定表を見ていただきたいと思います。
10 月の予定としましては、
・1 日　金井教育委員の任期満了に伴う再任辞令交付
　　子育て支援センターの落成式、教職員人事推進会議に出席します
・3 日　川中文化祭
・6 日から 11 日まで、徳永町長、実行委員長 金井委員が台湾 霧台郷訪問
・10 日　弟子屈高校　強歩遠足
・12 日　ビラオ山麓マラソン
・14 日　総合防災訓練　川小・川中 1 日防災学校
・17 日　美留和小学校 学芸会
・24 日　和琴小学校　学習発表会
・25 日　総合文化祭　芸能発表
・27 日　移動教育委員会
・31 日　川湯小学校　学芸発表会
以上が事務局からの報告となります。

岩原教育長：ただいまの報告について、なにかございますか？
菅原委員　：10 月 27 日の移動教育委員会については、別用務があるため欠席させてくださ

い。

岩原教育長：最後に、次回以降の、教育委員会開催日時につきまして、確認します。
来月の定例教育委員会につきましては、前回の会議で、１０月２７日（火）に美留和小学校での移動教育委員会ということで、ご案内しておりましたが、都合の方は、よろしいでしょうか？
開始時間は、午前１０時００分の予定で進めております。それでは、来月は、２７日（火）でお願いします。
その次の、第１１回定例教育委員会につきましては、１１月２５日（水）を予定しております。
教育委員会の後に、町長を交えた総合教育会議を行う予定となっております。
時間的には定例教育委員会を１０時００分から総合教育会議を１１時００分から予定としております。今から都合が付かないという方はおりますか？

吉田委員　：都合が合わず、欠席となります。

岩原教育長：来月、再度確認したいと思いますが、日程を予定しておいてください。よろしいでしょうか？

各委員　　：はい

岩原教育長：それでは、以上をもちまして、本日の会議「令和８年 第９回 定例教育委員会」を閉会いたします。

上記会議の次第は、書記の記載したものであるが、その内容は正確であることを証するため、ここに署名する。

弟子屈町教育委員会　教育長　岩原　勝行

弟子屈町教育委員会　委　員　宮田　昇子